令和２年度　第２回豊田市スポーツ推進審議会　会議録

【日　時】　令和３年２月８日(月)　午後３時 30 分～午後５時 15 分

【場　所】　緊急事態宣言期間中のため、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、WEB 会議ツール ZOOM を使用して開催

【出席者】　（委　員）
菊池　秀夫　（中京大学スポーツ科学部　教授）《会長》
福岡　信明　（(公財）豊田市スポーツ協会　常務理事）《副会長》
赤川　鈴治　（豊田市区長会　副会長）
岩月　富士雄　（(一社）豊田市身障協会　会長）
岩月　幸雄　（豊田市健康づくり協議会　会長）
梅村　郁仁　（(株）名古屋グランパスエイト　広報コミュニケーション部　部長）
加藤　恵美子　（豊田市スポーツ推進委員協議会　会長）
岸田　多加司　（トヨタ自動車（株）総務・人事本部　地域貢献グループ長）
佐宗　敏久　（中小学校体育連盟豊田支所　副支所長）
手嶋　道雄　（豊田市スポーツ少年団　本部長）
徳増　年彦　（(株）豊田スタジアム　常務取締役）
藤村　文也　（豊田市サッカー協会　理事長）
安江　与志幸　（豊田市ラグビーフットボール協会　理事）
簗瀬　歩　(しもやまスポーツクラブ　事務局長)

【欠席者】　（委　員）
黒川　悠　（公募委員）
谷山　由香利　（豊田市女性スポーツ団体協議会　会長）

【事務局】
粕谷　浩二（生涯活躍部部長）
近藤　孝浩（生涯スポーツ推進課課長）
都築　保裕（生涯スポーツ推進課副課長）
阿垣　一大（生涯スポーツ推進課担当長）
榎津　祐樹（生涯スポーツ推進課主査）
小石　拓也（生涯スポーツ推進課主査）
清水　章　（生涯活躍部副部長）
塚田　知宏　（スポーツ戦略課課長）
畔柳　隆二（スポーツ戦略課副課長）

【傍聴人】　なし

【次　第】
1　会長あいさつ
2　生涯活躍部あいさつ
3　議題
（１）教育に関するアンケート結果について
（２）（仮称）第４次豊田市生涯スポーツプランの方向性について

【会議録（議題部分のみ）】

■議題（１）教育に関するアンケート結果について

事務局：資料に基づき、教育に関するアンケートの説明

会　長：事務局から説明のあった内容について、ご意見、ご質問がありましたらお願いします。

委　員：小中学生のスポーツの機会についてアンケート結果があった。通学距離が遠い小学生。例えば、片道 30 分、往復 1 時間程度歩いている小学生。もちろん、学校近くで登校時間が少ない小学生もいる。中学生もいる。豊田市の中では、都市部、郡部、中山間地がある。スポーツという幅広い分野で考える際、登下校の時間を考慮すべきではないかと思うが、いかがか。

事務局：通学という部分も歩くという視点では、広くスポーツと捉えても良いのかもしれない。ただし、スポーツの施策の中にどのように反映できるかは、難しいとは思うが考慮していきたい。参考として、「通学」を含んでいるかは不明ではあるが、アンケートにある、『体育の時間以外での「軽い運動（遊び）」を加えたスポーツ実施率』をご覧いただくと、小学 5 年生の 2011 年では「ほぼ毎日」との回答が 51.4%とあるが、2020 年には 34.9%と減少している。このことから、全体的に子ども達が体を動かす機会は減ってきているのではないかと考えている。

委　員：ありがとうございました。健康ということを考えると、通学に時間をかけていた子どもたちは、足が強い。健康につながっていると感じている。施策に生かすということは難しい部分があると思うが、スポーツと健康の面から現状把握をされ、何らかの考慮がされても良いのではないかと思う。

委　員：スポーツ実施率の低下があり、『体育以外でのスポーツ活動』では、「学校の部活動、クラブ活動」が 43.2%となっている。子どもたちは部活動へ入部するようになっているかと思うが、１週間に１度もスポーツをする機会がない子どもたちがいることについて、例えば、文科系の部活動に入っているから等の背景（理由）がわかれば教えてもらいたい。

会　長：本日時点のアンケート集計結果が単純集計の状態のため、今後クロス集計を実施する中でわかるようになる部分があるかもしれないが、いかがか。

事務局：クロス集計作業を実施しながら、スポーツを実施しなかった子どもの属性等を把握し、詳細な情報が整えられるようにしたい。また、部活動だけの話であれば、教育委員会が小中学生の入部状況を把握していると思われるため、その点も併せて今後確認していきたい。

委　員：「する」スポーツの低下に、部活動ガイドラインの影響を受けていると考えられると記載があるが、私が子ども達のスポーツ指導をしていて、中学３年生になるとクラブ活動を辞めるという子どもが増えると感じている。１人辞めれば、また１人辞めていくという、私どもスポーツ指導者の視点としては寂しい流れになっている。なかなか継続性を持って子どもたちに接していくことが難しいと感じている。子どもたちがスポーツを楽しみながら、学業に精を出せるような考え方が無いものかと思う。子どもたちもそうだが、親も同様で塾に行かせないといけないという声をよく聞く。この部活動ガイドラインが良く分らないため、どのように接していけば良いかスポーツ少年団として難しい問題だと考えている。

委　員：この部活動ガイドラインは、平成 29 年４月から運用している。運用当初、1 週間にわたり長時間の部活動で子どもたちのバランスが崩れたり、教職員の疲れなどが背景にあり、子どもたちの健やかな成長のために、バランスの取れた生活の実現、スポーツ障害の予防を目的としてガイドラインが運用されているものである。具体的な取組みの中で、平日 2 日の休日を設ける、土日いずれかを休日にするということで取り組んでいるのだが、それがスポーツをする機会を減らして

いるということにつながるとまた難しい話となるため、また考えないといけないと思う。

委　員：ありがとうございました。その状況の中で、子どもたちが自分の身をどこに置くのかということを悩んでいるのかということがわかりましたし、その中で指導者たちが、何ができるかを考えていかないといけないと思う。

会　長：「する」「楽しむ」「支える」スポーツがどちらかというと、アンケート結果からは減少傾向にあるということが浮き彫りになってきたのではないかと思う。これからクロス集計が行われて、より細かなことが分かってくるのではないかと考えている。

■議題（２）（仮称）第４次豊田市生涯スポーツプランの方向性について

事務局：資料に基づき、（仮称）第４次豊田市生涯スポーツプランの方向性のひとつ、「する」スポーツの方向性説明について説明

会　長：ただいまの事務局の説明についてですが、「する」スポーツの方向性の案についてご説明してもらいました。この内容につきまして、ご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。

委　員：「する」スポーツにあたり、主に高齢者の健康体操の支援を私どもの団体が実施している。アンケート結果の中に、運動を行わない理由で「年をとったから」が増加傾向にあるものの、私どもは年を取った方に運動をしようと進めている。そのため、活動する自主グループの数は 200 を超え、今後さらに増やしていきたいと考えている。ただし、私どもが実施している内容は、ストレッチ、筋トレ、コグニサイズ、歌を歌うなど、本格的なスポーツではないものの、施策の方向性に記載がある、「楽しみながらスポーツを実施できる場を創出する」の楽しく活動するための指導者やその育成が大切だと考える。そういった人材が多いと、私どもの活動も進めていけると思うため、この部分を強調していっていただきたい。

会　長：豊田市としては、スポーツを幅広く捉えていくと、第３次生涯スポーツプラン行動計画にも記載されており、そういった意味では実践されている活動はスポーツに関わってくると考えて結構だと思う。

事務局：ご意見いただいた部分は、まさにプランの中に位置づけていく内容であると感じており、今後の調整の中でより具体的に考えていきたい。

会　長：楽しくやれるような指導者は、「支える」スポーツとも関わってくると考える。

委　員：前回も申し上げたように思うが、「する」スポーツの方向性の中に、運動教室や運動機会、運動の場という記載があり、「運動」という言葉は「スポーツ」へ統一されていくべきかと考えるが、いかがか。

会　長：幅広くスポーツという用語は使用できると思うが、部分部分で考えると、運動という言葉とは使い分けるとか、「運動・スポーツ」とか、いろいろな使い方も必要になってくるのかなと思う。

事務局：「スポーツ」と「運動」という言葉が混在している状況があり、それぞれの言葉の定義や使い方には今後もう少し考えていきたい。

委　員：私も、「運動・スポーツ」という使い方ぐらいが良いのかと思う。例えば、「トップスポーツチームによるスポーツ体験を通じて、運動の楽しさに気づく」になっているため、文章中の言葉の連動がなされていないように感じる。また、「地域スポーツの担い手や企業・大学と連携して必要な運動の場を創出する」となっている部分等で、言葉の統一が必要だと思う。今後検討してもらいたい。

会　長：言葉の誤解が生じない調整を、事務局でお願いしたい。

委　員：スポーツを競技スポーツ、運動を体力保持・健康管理と捉えると、身障協会会員の取組は、体力保持・健康維持だと考えている。運動機会が少なくなるということは、違う意味で言えば、健康・体力保持ができないという現状になってしまっている。また、トップアスリートは企業ぐるみで取り組んでいるし、学生もそういう環境のもとで取り組んでいるため、協会側としては、手が出せない範ちゅうだと考えている。

会　長：競技スポーツから、楽しみのスポーツ、エクササイズ（運動）、体操、いろいろなものが混在、抱合している言葉が「生涯スポーツ」になっていると思う。すぐに全ての人に理解してもらえるかというとそうではないと思うが、こういった機会に言葉の調整を行い、市民の理解と認知を進めていく必要があるのではないかと感じている。

事務局：資料に基づき、（仮称）第 4 次豊田市生涯スポーツプランの方向性のひとつ、「楽しむ」スポーツの方向性説明について説明

会　長：ただいまの事務局の説明についてですが、「楽しむ」スポーツの方向性の案についてご説明してもらいました。この内容につきまして、ご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。

委　員：サッカーが見るスポーツにおいて割合が高いことは、名古屋グランパスとしてありがたいことだと考えている。行政の理解を得ながら、小中高生の無料観戦を実施できたことなどが大きな要因になっていると考えている。2020 年の低下は、コロナウイルスの影響があるかと思うが、安心・安全なスタジアムということをしっかり訴求して、今後も観戦に来ていただける方を増やしていきたい。豊田スタジアムで、今シーズンはグランパスの全てのリーグ戦が開催されるため、駅前からソフト面の盛り上げと、豊田スタジアムのハード面での充実、スマートスタジアム化も含めて、来場者の新しい観戦体験というところも充実させていきたい。必要な環境整備を行いながら、そもそもサッカーやスポーツに興味をもっていただけるようなホームタウン活動もしっかり充実していきたいと考えている。

会　長：豊田スタジアムを盛り上げるためには、周辺のビジネス、市民はもちろん、そういう体制が必要になってくると思う。

委　員：「楽しむ」スポーツの対象は市民だと思いますが、豊田の未来を背負って立つ子どもたちに向けた楽しむスポーツという部分も盛り込んでいけたら良いのではないかと思う。

会　長：これからそれぞれの施策のターゲットを明確にして、実際どのように取り組むのかということが必要になってくると思うが、いかがか。

事務局：当面 5 年間、年間 20 試合のグランパスの試合が豊田スタジアムで開催されるようになる。子どもたちにとって、トップクラスの試合を見てもらう機会になるし、スカイホール豊田でもサッカー以外の様々な大会が開催されている。そういった機会に、子どもたちに観てもらって、「する」スポーツのきっかけになるようにつなげていきたいと考えている。こういった部分も PR していきたいと考えている。

委　員：「楽しむ」というネーミングをしているため、もう少し積極的な記述があった方が良いように感じる。例えば、ふれあう機会を増やす、誘致や環境整備、スポーツツーリズムの取組はわかるが、観る人を増やすためには、プロデュースとプロモーションということが入ってきても良いと思う。受身的に場所を用意するだけではなく、積極的に見てもらえるようにプロデュースにも触れ、プロモーションも行っていくというような積極性がこのプランの中に書かれていると、先ほどの佐宗委員の提案にも関連して伝わるようになるかと思う。

事務局：子どもたちへのアナウンス、プロモーションも含めて、しっかり検討していきたい。

事務局：資料に基づき、（仮称）第 4 次豊田市生涯スポーツプランの方向性のひとつ、「支える」スポーツの方向性説明について説明

会　長：ただいまの事務局の説明についてですが、「支える」スポーツの方向性の案についてご説明してもらいました。この内容につきまして、ご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。

委　員：楽しみながらスポーツが実施できる方向でいくと、指導者の養成、より多くの指導者がより各グループの活動を支えてくれるという形を創り出してほしいと思う。指導者やスタッフが高齢化しているという課題をうたっておりますが、やはり次の世代の人を養成していただいて、いろんな分野で支えてくれる人的な養成、そういうところが欲しいかなと思う。今後の施策の中でも、スポーツ関係団体の活動支援の中に、マンパワーを充実していくというようなことを施策に盛り込んでもらえるとありがたいと思う。

事務局：活動支援の中での指導者養成ということは、行政だけではできない部分になるため、皆様方にご相談させていただきながら、施策の検討をしていきたいと思う。

委　員：これまでもヘルスサポートリーダーにお誘いのあったコーディネーショントレーニングの研修等、市として実施されていると思うが、レベルの高い講師を呼ぶにはそれなりの費用もかかると思うため、施策に位置づけていただき、いろんな種目の、いろんな指導者が、良い研修を受けられる形で、人材養成を進めていただくことは、大変期待をするところである。

事務局：そういった部分が重要だという認識はしているため、どういったことができるか今後検討していきたい。

委　員：岩月委員と同様、サッカー協会も指導者確保で悩んでいるため、施策の中に盛り込んでもらいたいと考えている。また、今後の部活動の指導が変わってくる。教員の働き方改革の中に、土日の部活動に関わらないということが打ち出されている。その状況の中、指導者の確保ができるのか、今と同じように活動できるのか心配でならない。また、サッカー協会も、小学校から指導者の派遣があり調整しているものの、シニアの方が中心になってくるのが事実であり、懸念される部分である。ボランティアや個人の意気込みにどこまで頼る部分が続くのか、限界があると思う。豊田市にはグランパスがあるので、関係の方に指導に来ていただくとか、そのようなことも必要だと思う。その際は、謝金等が発生するなど心配が多い。

事務局：行政が支出できる費用も限度があるため、どういった支援が一番効果的なのかということも含め、プラン策定の中で考えさせていただきたい。

会　長：学校の部活動で土日は教員があまり関わらない形になっていくという点に関しては、市の考えはいかがか。

事務局：部活動については、教育委員会を中心に、教員の働き方改革を目指した部活動改革としてまさに議論が始まっている。地域でスポーツを支えている方々から要望があることも承知しており、教育委員会や地域の担い手の皆さま方と連携し、どういう形が一番良いのかを模索しながら始まっていくものと考えている。その中で、教育委員会のモデル事業が始まっていきますので、どういった形が一番良いか、また皆様方に意見を伺う機会があろうかと考えている。

委　員：実体験として、高齢者になってきた指導者が積極的に後継者を育成しようとする考え方がないと、なかなか若い指導者が頭を出してもらえる機会がない。後輩を育てなければならない。若手を発掘しようと、機を見ては取り組んでいる。指導者を少しずつ育成している。

会　長：市だけではなく、それぞれの組織でも考えていかなければならない問題である。

委　員：市民のスポーツ機会を増やすという目的に対し、地域間、特に都市部と山間部のバランスがなかなか取れない状況だと思う。その中で、それぞれの競技団体の子どもたち、大人も含め、どう支えていくのか、スポーツの実施機会をどう捉えていくのかということを、実施率を上げるために地域バランスを考慮して、このプランに盛り込んでもらいたいと思う。

事務局：スポーツの実施環境については、都市部と山間部という様々な条件の違いという部分は、私どもも認識をしている。現時点の方向性の中にはそういった表現の記載はしておりませんが、文言に入れられるかも含め、検討したい。

委　員：土日に施設の利用がほぼ埋まっているという話は都市部の話で、山間部は施設も学校開放も空いている状態のため、それをうまくコーディネートするようなことを考えてもらうことが重要なことだと思う。土日であれば、少し足を延ばしても利用してもらえると思うので、プランに盛り込むというよりは、運用レベルの時にはそういうことをお考えいただけると良いと思う。もう一点は、支援は、スポンサードも一つの支援である。市スポーツ行政は非常に良くやっていると思うが、市だけが活動支援しようと考えるのではなく、活動支援をしていただけるスポンサー企業と市がうまく結んでいただけるということも支援の中には考えを入れた方が良いと思う。そうすれば、指導者の謝金等についても解決の糸口が見えてくる可能性があると思う。つまり、スポンサーとスポーツ活動を結ぶということも、どこかに入ると良いと感じる。

事務局：施設の利用の差については、委員のご指摘のとおり、プランの中に位置づけるよりは、現場の運用レベルというところが望ましいかと思う。具体的な考え方については、プランの中でも運用の見直しの記載もしておりますので、今後検討してまいりたいと思います。スポンサーについては、例えば、市の連携協定の中で、ポッカサッポロフード＆ビバレッジ㈱から飲料提供を受けている事例などもあり、この事例を含めた連携も念頭に置いて検討していきたい。

会　長：それでは、全体を通して、ご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。

委　員：全体を通して、スポーツをしない子どもが増えていることは、グランパスとしては危惧している状況である。運動機会の減少はもちろん、運動にふれる機会自体が無くなってきているのではないかと感じているため、既に市とは取り組んでいるが、コーチの巡回指導を実施しており、もっと注力して、子どもたちがスポーツにふれるきっかけを作りたいと考えているので、ぜひまた行政の皆さんと話を進めていきたいと考えている。また、年をとったから運動をしないという結果もあったが、別の自治体との取組では、介護予防教室という形で、スクールのコーチがお邪魔して、加齢したからこそ、運動の重要性を説きながら、軽い運動でも少しでも健康に過ごせるような活動も行っている。こういったところもぜひ進めていければと考えている。また、障がい者の方のスポーツについても、サッカーにはいろいろな競技があり、視覚障がい者のためのサッカーや、車いすを使ったサッカーなど、サッカー協会の方とも連携しながら、障がいをお持ちの方も体を動かすようなきっかけになるような取組ができればと思っている。いずれも予算化が必要な案件も多いかと思うが、我々が持つ資源を活用していただいて、ぜひ多くの方がスポーツにふれて、スポーツを楽しめる環境を作っていけたら良いと思っているので、ぜひこれからもお話しさせてもらえればと思う。

委　員：具体的な施策をつくるにあたり、今回のように、各団体の方に丁寧に意見を聞いてもらいたいということをお願いしたい。また、施策を展開していく中で、どの団体が何をするというように、

具体的な内容で　示してもらいたいと思う。抽象的な書き方になると、役割が不明確になり、展開がしづらくなるため、できるだけ明確にしてもらいたい。

事務局：施策を検討していく中で、各団体様の意見を今後も丁寧に伺ってまいりたい。具体的な役割の部分も、可能な範囲で載せられる部分は載せていきたいと考えている。

会　長：皆様、多くのご意見ありがとうございました。事務局におかれましては、本日の意見を基にスポーツプランの今後の方向性及び施策内容についての検討を進めていただきたいと思います。それでは、これをもちまして審議を終了いたします。

以上